

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	成人看護学概論			担当講師	専任教員
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1年		1 (20)	講義	令和5年前期
科目目標					
成人期の特徴をふまえた、成人看護の基礎と概要が理解できる。 ①ライフサイクルにおける成人期の位置付けが理解できる。 ②成人各期にある人の身体・精神・社会的側面の特徴を理解できる。 ③我が国の成人保健の動向や 成人各期の健康づくり、予防方法について理解できる。					
授業概要					
成人看護学では、大人を対象とし、成人期の発達や生活背景をふまえた看護の方法を学ぶ。わが国における保健の動向と課題、健康政策や生活習慣病・健康づくりについて、自己の生活と関連付けながら理解する。これまでの実習や看護実践をふまえ、成人看護における課題や看護の役割について理解を深める。					
卒業時到達目標との関連					
DP- ① 2・3・4・5・6・7・8・⑨ 10・⑪・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 成人の生活と健康 1) 成人と生活 ①対象の理解 ②対象の生活	10	2	②生活行動がもたらす健康問題とその予防 (演習を含む)
2	2		11	2	
3	2	2) 生活と健康 ①成人を取り巻く環境と生活から見た健康 ②生活と健康をまもりはぐくむシステム	12	2	
4	2		13	2	
5	2		14	2	
6	2	2 成人への看護アプローチの基本 1) 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 ①大人の学修 ②行動変容を促進する看護アプローチ	15	2	
7	2	2) 症状マネジメント 3) 意思決定支援	【テキスト・参考書】 ・成人看護学総論 医学書院		
8	2	3 成人の健康レベルや状態に対応した看護 1) ヘルスプロモーションと看護			
9	2	2) 健康を脅かす要因と看護 ①健康バランスに影響を及ぼす要因	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 レポート ワークへの参加度		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業

科目	健康状態に応じた経過別看護Ⅰ (急性期・回復期)			担当講師	専任教員 外部講師
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1年		1 (30)	講義	令和5年後期
科目目標 回復期や急性期の疾病の経過の特徴や、その時期に必要な看護の特徴を理解し、必要な看護を講義や演習を通して理解する					
授業概要 回復期にある成人の特徴を理解し、健康障害を負いながらも自立・自律した社会生活を送るために必要な知識・技術を学習する。また、障害を負いながら社会生活へ移行するために必要な社会制度の活用やリハビリテーションの実際について、リハビリテーションセンターの施設見学を通して学ぶ。急性期にある成人の特徴を理解し、周手術期を中心に身体侵襲による苦痛の緩和や合併症を予防し、機能の回復に必要な看護の知識、技術を講義、演習を通して学習する。					
卒業時到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 回復期にある対象の理解 1) 回復期の特徴 2) 障害の認識過程	10	2	8 手術中期の看護 1) 手術中期の看護目標 2) 手術中期の看護活動
2	2	2 回復期にある対象への看護 1) 回復期の生活を支援する看護 ①病態・治療・検査の理解 ②障害の特徴に応じた看護 ③ADL拡大に向けた支援	11	2	9 手術後期の看護 (1) 合併症の種類とその援助 (2) 疼痛管理 (3) モニタリング活動 (4) 環境調整の方法 (5) 精神的援助
3	2	2) 障害の認識過程の援助 3) 社会生活のための援助	12	2	10 術後の回復を促す看護 11 急性期の患者の家族への看護
4	2	3 心筋梗塞患者の看護 1) 回復期の生活を支援する看護 ①病態・治療・検査の理解 ②障害の特徴に応じた看護 ③ADL拡大に向けた支援	13	2	12 周手術期にある患者への看護 1) 術後1日目の観察と離床に向けた看護計画立案 2) 術後1日目の観察と離床の実施
5	2		14	2	3) 患者の回復を促す看護援助の実施 ①呼吸機能を回復するための援助 ②シミュレーターを用いた観察援助
6	2	4 社会生活に向けての援助 【病院・施設での見学実習】	15	2	13 クリティカルケア(認定看護師) 1) 患者、家族の特徴と看護 2) 治療と管理 3) 早期リハビリテーションの実際
7	2	5 急性期とは 1) 急性期の特徴 2) 急性状態になる要因 3) 急性期看護の特徴	【テキスト・参考書】 ・臨床外科看護総論 医学書院 ・クリティカルケア看護学 医学書院 ・リハビリテーション看護 医学書院		
8	2	6 周手術期の患者の理解 1) 周手術期とは 2) 手術療法の特徴 3) 手術侵襲による生体反応			
9	2	7 手術前期の看護 1) 手術前の看護目標 2) 手術前の看護活動 ①諸検査②術前オリエンテーション ③術前訓練④術前処置			
【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 レポート ワークへの参加度					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	健康状態に応じた経過別看護Ⅱ (慢性期・終末期)			担当講師	専任教員 外部講師
学科名	学 年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	1年		1 (30)	講義	令和5年後期
科目目標 慢性期・終末期にある成人の特徴を理解し、健康障害の程度に応じた生活調整のための看護に必要な知識、技術を取得する。					
授業概要 慢性期では、慢性期の看護の考え方、セルフマネジメントの支援方法を学び、病状の管理や生活調整の必要な慢性期にある患者への看護を学ぶ。演習を通して永続的な管理が必要なストーマ造設患者へのセルフケア支援について学ぶ。また、生活調整が必要な患者へのエンパワメント支援についても学び、成人期にある患者への学習支援を体験を通して学ぶ。 終末期では、終末期にある患者をどのように理解し援助するかを考え、さらに成人期における終末期の特徴や看護についても学ぶ。また授業を通して看護者としての人間観、死生観、看護観を見つめなおす機会とする。					
卒業到達目標との関連 DP- 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12					
回数	時間数	授 業 内 容	回数	時間数	授 業 内 容
1	2	1 慢性期看護の考え方 1) 慢性期の考え方 2) 慢性疾患の治療と看護の特徴 3) 病みの軌跡 4) 家族への看護	10	2	6 終末期にある患者の看護 1) 終末期におけるコミュニケーション 2) 意思決定支援 3) 社会的支援
2	2	2 慢性期の患者のセルフマネジメントへの支援 1) 慢性期の看護の目標 2) エンパワメントへの支援 3) セルフマネジメントへの支援	11	2	【演習】 病気が終末期となった段階での看護を考える
3	2	3 慢性期にある患者の看護の実際 1) 大腸がんでストーマ造設を行った患者のセルフケア獲得に向けた支援 【演習】	12	2	4) 終末期における症状マネジメント
4	2		13	2	
5	2		14	2	5) 終末期における日常生活援助 6) 全人的苦痛の援助 7) 臨死期の看護 7 患者家族への看護 1) 家族ケアの方法 2) グリーフと遺族ケア
6	2	2) 慢性腎不全患者(糖尿病患者)のセルフケア、セルフマネジメントへの支援	15	2	
7	2		【テキスト・参考書】 ・成人看護学総論 医学書院		
8	2				
9	2	4 終末期にある医療の現状 5 終末期にある対象の理解 1) 死の概念と判定 2) 全人的苦痛	【成績評価の方法】 ■ 筆記試験 ■ レポート ■ ワークへの参加度		